

# WWW サーバを利用した史跡紹介システムの試作

— 宗教学の観点から —

植 村 芳 樹

## Instructing the Introduction System for Historical Sites

Yoshiki UEMURA

### 1. はじめに

義務教育機関と高等教育機関の歴史学の教材として WWW サーバを利用した史跡紹介システムを構築したので、それを報告する<sup>[1, 2, 3, 4]</sup>。特に、このシステムは歴史学の神話教育の教材として開発した。ギリシャと日本にしかない神話について、広く現代の生徒・学生諸君に触れてもらうことを目標としている。日本の神話の代表である「古事記」と「日本書紀」の信憑性はともかくとして、今尚続く神社信仰の神髄に生徒・学生諸君のみならず、全世界の人々に興味を持ってもらうことが目的である<sup>[5]</sup>。

本史跡紹介システムは、「鈴鹿地方」、「熊野地方」、「櫻井地方」と「比叡山」の4つの構成からなっている。「鈴鹿山脈」と「三輪山」から「比叡山」への山脈及び、「鈴鹿山脈」と「熊野三山」への山脈を結んだ意味あいを持つ。また、本史跡紹介システムは歴史的ロマンをユーザに与えるだけでなく、お守りやお札の意味あいをも有するものである。また、各地に点在する分社に関して、総本宮からのつながりによって益々効力を発揮できる。本論文では、宗教学見地から本史跡紹介システムの意義を検討する。

### 2. 紀伊半島南部の神々を繋ぐ役割

戦国時代は、山取り時代であったのは事実であり、近年の日露戦争でも 203 高地の攻防によって、勝敗がついたと行っても過言はないといえる。

日本の神話によると、国作りに神々が、各方面に散らばり山々の地の神を併合させていったとある。その山々の地の神を本史跡紹介システムは、結ぶものである。神々の分離や合体は日常茶飯事

に起こり、本史跡紹介システムを拝見したユーザは、拝見する日時によって、別の神々を見ることになる。

また、本史跡紹介システムで紹介できなかった神々も、紀伊半島南部の神々が、時として姿を変えて表れる可能性は十分に考えられる。日吉大社に注目すれば、白山宮や宇佐宮等があることから、全国各地の神々の分身が祭られているとも考えられ、紀伊半島南部の神々だけではなく、全国の神々と遭遇できる可能性がある。

### 3. お守りとしての意味

我々が携帯するお守りは、神々と無線でつながれており、危険から身を守ってもらう意味がある。従って、お守りは一種の端末と考えられる。インターネットを介してユーザが史跡紹介システムを見るコンピュータのことを端末と呼ばれ、神社と各家庭とを有線でつないでいる。この端末も、お守りと同様の効力を発するものと考えられる。

まず、ホームページ1において霽が偶然ではなく、神が表れているとすると、このお社を見た方々は神との遭遇ができる。一説に、峠の霽に神が表れていると考え、玉串を峠に捧げたことが、現在の玉串の原型であると言われている。この霽に神が存在するのであれば、神の意思として世に出たいという願望も感じられ、ものすごいパワーが感じられる。万が一、霊能力者と呼ばれる方々が、このページを見れば一度は行ってみたいくなるのは当然であろう。また、一般の方々については、すばらしい景色を拝見するため、霽の懸かったお社を拝見したくなるであろう。

次に、ホームページ2において、琵琶湖に偶然にも霽の固まりが掲載されている。これは、近江

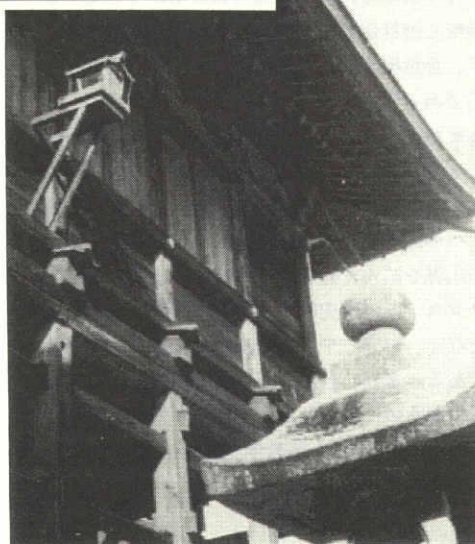
## 牛尾宮・三宮神社



日吉大社の背後にある山を八王子山（牛尾山）と呼び、これを神体として原始宗教が発達したと考えられている。

もともとは、この地方独特の地主神が祭られていた山で、東本宮の左手にある急な九十九折の八丁坂を登っていくと、二十分ほどで着く。

山王祭の時には、この急な坂を神輿が下がっていくのである。



山宮に着くまでの景色はとてもすばらしいです。

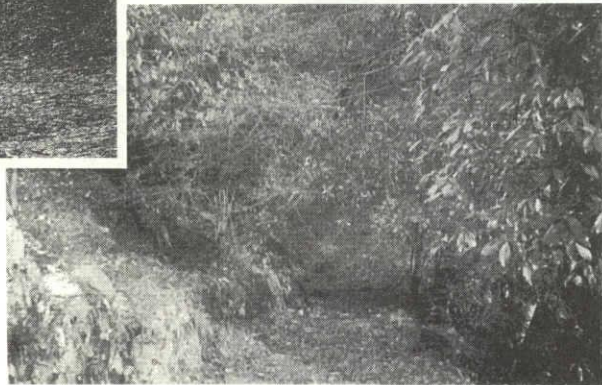
ホームページ 2



琵琶湖の眺めは最高！！  
山頂（標高387m）からの眺めをおすすめします。



→四季折々の様子をうかがうことが出来る山道



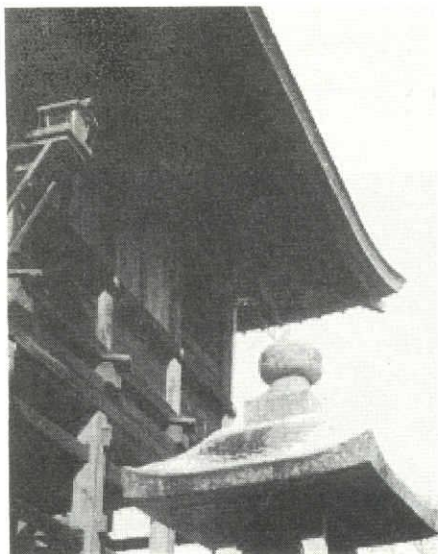
東向きの山腹に、崖に懸けるように床柱を延ばした上に建てられた社が二棟ある。

向かって右が牛尾宮（八王子神社）、左が三宮神社である。また、その背後にどっしりと構えているのが注連縄を締めた金大巖（磐境）と呼ばれる霊岩で、もともと牛尾山の御神体は、この「岩」あるいは「山」そのものだったと考えられている。

## 三宮神社

三宮神社は、三間社流造檜皮葺で慶長四年（一五九九）竣工された。ここには、鴨玉依姫紙の荒魂が祭られている。

敷地の関係から、拝殿と本殿が一体化した建築様式で、拝殿正面の入母屋造りの妻の部分を入口に充てている。



## 牛尾宮（八王子宮）

地主神である大山咋神の荒魂を祭っている。

元禄四年（一六九一）に建築された。そもそも、山上に牛尾宮が建立されたのは天喜元年（一〇五三）のことだったとされている。

の国の神々がすべて出ておられると考えられ、比叡山だけではなく、その他の山々の神々が世に出たい願望を持っていると考えら得る。比叡山は、京の都の主護身であり、近江の国は大変重要な位置にある。近江の国全体の神々が世に出たいということは、新しい国作りの兆しではないかと考えられる。

最後に、このような史跡紹介システムを見たユーザは、お守り以上の効力を感じる可能性は十分に考えられる。波長のあったユーザは、比叡山に赴きたくなるであろう。

#### 4. 全国の分社への役割

全国各地に日吉神社、熊野神社や三輪神社等がある。これらの分社の総本山である大社を紹介することにより、大社を拝見したい方々は、遠方であっても崇拝することができる。また、樺大神社のようにアメリカに分社がある例もあり、世界レベルで上記のことは述べられる。

また、分社に祭られている分身がいつでも本体に変換でき、効力が必要なときは、本体が登場できる体制を本史跡紹介システムは強化したと言える。分社に従事されている方々にとって、本体を呼ぶことが容易になつたことにより、本史跡紹介システムの分社への役割は大きいと考えられる。

#### 6. 私見的考察

「迷える国」と『アメリカの属国』である日本において、新しい国作りの一貫として本史跡紹介システムを作成した。我々研究者は、3次元以上の世界の神々のルールを3次元の世界に知らしめる『鬼道』を弁える必要がある。宗教界においても、3次元以上の世界に行きたい人間は多数いるのであるが、いくら修行を積んでも芽がでない人々がほとんどである。また、何事においてもセンスがなければ、職人気質にはなれない。円空は、「木の中に仏が存在するから掘っている。」と述べている。また、浪曲千人坊主では、自分自身のこととはわからないことを大衆に教えている。精神医学的にも、今何次元にいることが分かり、3次元の世界に無事戻つてこれれば、精神的に異常ではないと言われている。真に鬼道を弁えた人々が、神々を呼び起こし「迷える国」の新しい国作りをする必要がある。

#### 6. おわりに

本史跡紹介システムの意義を宗教学的に検討した。筆者自身、宗教学を本格的に研究しているわけではないが、ホームページ1と2に神々が表れている露が偶然にも掲載されていることを知り、微力ながら宗教学的考察を行った。筆者は、神道よりも儒教を志す者であり、現代日本人に欠けるものは、この儒教精神に基づいて強いて言えば、『感謝の心の上に礼儀があり、それに基づいてマスタードサービスを心がけること』が、残念ながら欠けている。

教育現場においては、神話教育と太平洋戦争教育が全くなされておらず、この2点が、迷える日本を造ってしまった原因であると思われる。本史跡紹介システムは、神話教育の一環としても利用でき、ギリシャと日本にしかない神話に触れるきっかけを与え、日本人の誇りを取り返す意味あいをも兼ね備えている。

##### 【ホームページアドレス】

<http://ie01.edu.mie-u.ac.jp/~uemura/siseki.html>

##### 【謝辞】

本史跡紹介システムを作成いただいた陣田、田島、山口、宮崎各氏並びに親切にご指導いただいた各神社の社務所の方々に深謝します。

##### 【参考文献】

1. 植村芳樹、陣田千華：WWWサーバを利用した史跡紹介システムの構築（その1 樺大社）、教育システム情報学会第23回全国大会、1998
2. 植村芳樹、田島礼子：WWWサーバを利用した史跡紹介システムの構築（その2 日吉大社）、教育システム情報学会第23回全国大会、1998
3. 植村芳樹、山口真司：WWWサーバを利用した史跡紹介システムの構築（その3 櫻井地方）、情報処理学会第56回全国大会、1998
4. 植村芳樹、宮崎喜博：WWWサーバを利用した史跡紹介システムの構築（その1 熊野地方）、情報処理学会第56回全国大会、1998

植村芳樹

5. 植村芳樹：意思決定の立場からのファジィ事象の概念とその応用、三重大学教育学部研究紀要第 48 巻、平成 8 年度
6. 植村芳樹：WWW サーバによる史跡紹介システムの試作 - 歴史学教材と観光案内の観点から -、三重大学教育学部研究紀要第 50 巻、平成 10 年度